

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671700221		
法人名	社会福祉法人 高越会		
事業所名	グループホーム 希望の家		
所在地	徳島県吉野川市山川町川東90-1		
自己評価作成日	平成24年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念に基づき、共同生活をおして温かな心の交流にふれ、尊厳ある人生を送ることを目的とし、温かな家庭的な安心できる事業所づくりに努めている。事業所の周囲は平地で田んぼや畑に囲まれ、自然豊かであり散歩にも適している。季節ごとに利用者と花を植え、水やりをしながら、育てる喜びを感じあっている。レクリエーションでは、ちぎり絵やぬりえを行い、作品を壁に掲示するなどして共同作業を楽しんでいる。全居室に電動ベッドやクローゼット、ナースコールを備えつけており、家具等を自由に持ち込んでもらっている。隣接の医療機関と24時間の医療サポート体制を構築しており、医療度が高い方でも、安心して生活してもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな環境のなかに位置しており、周囲には散歩コースもある。一人で散歩を楽しむ利用者のために、事業所から地域住民へ見守りの協力を依頼するなどしており、地域全体で利用者の暮らしを支援している。利用者と職員は、花の植替えや室内の壁飾りなどの作品づくりをともに楽しんでおり、家庭的な雰囲気の中で生活している。また、同一法人の運営する他事業所や医療機関が近隣にあり、協力体制を構築している。管理者や職員は、利用者や家族と積極的にコミュニケーションをとり、出された意見や要望等を日ごろのケアや運営面へ反映している。職員は、利用者一人ひとりの心身状況を共有し、明るく前向きに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム希望の家 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのふれあいを大切にして、利用者がその人らしい生活が送れるよう事業所独自の理念を作りホームに明示し、朝の申し送り時に読み上げている。	事業所独自の理念を作成している。ミーティング時に、理念と理念の成り立ちを唱和している。職員は理念を共有し、利用者一人ひとりの要望に応じることができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩支援時など近隣の人にあいさつすることによって交流を図っている。また、運営推進会議、行事計画などできるだけ家族や地域の方の参加があるような声かけを行っている。	地域住民へ事業所の行事への参加を呼びかけたり、地域のお祭りに参加したりして交流を図っている。散歩の際などに、地域住民と挨拶を交わしている。保育所の子どもの来訪があり、積極的に地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の理解が得られるように勉強会を開くなどして啓発に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が2か月に1回開催されている。地域包括支援センター職員、民生委員の方の参加により利用者の状況、行事の予定、要望などを話し合う。議事録を作成して市役所に提出している。	年6回、運営推進会議を開催している。事業所の現況報告や地域との交流について話しあっている。職員間で議事録を回覧し、情報の共有化を図っている。家族の参加を得ており、活発に意見交換を行っているが、地域住民の参加を得るまでには至っていない。	認知症の理解や事業所への支援を得ることができるよう、地域住民へ呼びかけを行うなどして、さらに質の高い会議運営に取り組まれるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、市担当窓口へ利用者の状況を報告している。また、ケアプラン等への助言をしていただくなど協力関係を築くよう取り組んでいる。運営推進会議の連絡なども行っている。	運営推進会議の議事録提出時や介護計画書について助言を得るなど、機会あるごとに市担当窓口を訪問し、協力関係を築いている。事業所の現状や課題について話しあっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内研修において身体拘束をすることによって起きる危険性を理解し、毎月身体拘束委員会を開催し、ゼロに向けて職員全体で取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置して事例検討等を行い、拘束のない支援に取り組んでいる。地域から見守ってもらいつつ、一人で散歩を楽しんでいる利用者もいる。利用者とのコミュニケーションを充実し、一人ひとりの思いを受け止めることで、本人の希望の実現に向けた支援に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行い、高齢者虐待についての知識を身に付け介護をする上で常に介護を受ける人の身になって対応するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム希望の家 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は成年後見制度について話 あっている。現在、制度が必要な利用者は いない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	家族または本人にご理解、納得していただ けるまで親切丁寧に十分説明するように心 がけている。納得できないことや疑問点があ れば相談に応じその場、もしくは後日確認の 上答えられるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	家族が来訪した時に、職員や管理者に何 でも話してもらえるような雰囲気づくりを心が けている。また、意見箱を設置して来訪時に はいつでも利用できるよう工夫している。	家族の来訪時、話しやすい雰囲気づくりに 留意しており、意見や要望を把握して運営面 へ反映させている。また、意見箱を設置して いる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員とコミュニケーションを図りなが ら、働きやすい職場になるよう報告、連絡、 相談のシステムを構築している。	管理者は、カンファレンスや研修会の機会を 活用し、職員から運営面に関する意見を聞いて いる。また、日ごろから職員が意見を出しや すい関係づくりを心がけ、積極的にコミュニ ケーションを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	代表者は職員の話聞いて、勤務状況の 把握に努めている。長く職員が働けるよう に、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際 と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め ている	定期的に法人内での研修を行い、外部研 修にもできるだけ参加できるよう情報提供、 学べる場の提供を行っている。また、研修 後、他の職員も理解できるよう伝達研修や 資料配布を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく 取り組みをしている	隣接している事業所と行事交流し合っ たり、地域の幼稚園との行事計画を共に考 え働いている。また、連絡協議会を通し地 域の同業者との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	グループホーム希望の家		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの情報を得る事と、アセスメント期間を設けることにより日常の生活を把握しサービスに反映できるよう努めている。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から話を聞き、家族の思いや不安な事を理解するように努めている。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを把握して、必要なサービスにつなげるように努めている。				
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の力に応じて役割を担ってもらっている。職員の気づかない事を教えてもらいながら、ともに学び支えあっている。				
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも定期的に情報交換を行い、面会、行事参加など家族の絆が保たれるように支援している。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人から人間関係や社会との関係を把握し知人友人の面会などにより関係が継続するよう支援する。	入居に至るまでの利用者の生活歴や人間関係の把握に努めている。知人や友人の来訪を歓迎している。また、家族の協力を得たうえで外出の支援を行っている。利用者の馴染みの人や場所との関係を継続することができるよう支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、座る位置等に配慮している。				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム希望の家 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	窓口をオープンにし、必要に応じて相談にのり支援するよう努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人から情報をアセスメントし、表情や行動などからも思いをくみ取れるよう職場全体で関心をもって支援している。	職員は、日ごろの利用者との関わりのなかで、会話の内容や表情、行動等から思いや意向の把握に努めている。家族から情報を得て、一人ひとりの思いの実現に向け話しあっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、家族からこれまでの生活歴を聞いている。利用者との会話から馴染みの暮らし方などを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックを行っている。また、利用者一人ひとりの行動や表情から体調変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員がモニタリングに加わりケアを評価することによって、家族、関係者、現場の声も含め参考にし介護計画を作成している。	全職員でモニタリングを行い、課題を共有している。利用者や家族、関係者の意見を介護計画書に反映している。本人がより良く暮らすことができるよう介護計画を作成している。利用者の心身状況の変化に応じ、随時、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録として職員が介護記録に記入し個別にファイルを作成している。全職員が情報を共有しケアにいかせるよういつでも閲覧できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望に応じて協力医療機関に受診できるよう支援し、他の医療機関にも本人や家族の希望にそえるようにしている。また、協力医療機関と連携し24時間対応が可能となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	グループホーム希望の家		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員に参加していただき意見交換をする機会をもっている。				
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関がかかりつけ医となっており24時間対応化可能な体制を提供している。また必要に応じて専門医受診の支援を行っている。	利用者や家族と話しあい、事業所の協力医療機関が主治医となっている。また、他科の受診も支援している。緊急連絡体制を整備し、適切な医療の受診ができるよう取り組んでいる。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体医療機関の看護師と密に連携を図り必要に応じて随時医療の支援を受けられるよう体制を整えている。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に利用者の情報(介護サマリー)を提供し、医師・看護師と話し合っている。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関する指針を定め、事業所が対応し得るケアについて説明している。	入居時などの早期段階で、重度化や終末期に関する話し合いを行い、事業所の対応方針を説明している。本人や家族の希望を大切に捉え、医療との連携を図ってチームで支援に取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急法についてマニュアルを作成し、勉強会にも参加している。利用者の急変時には、併設する医療機関と連携を図っている。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。事業所の避難経路図を作成し、いつでも確認できるようにしている。	消防署の協力を得たうえで、年2回、避難訓練を実施している。事業所で作成した災害マニュアルや避難経路図を掲示し、日ごろから職員間で確認している。また、非常時に備えて物品を備蓄している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム希望の家 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを傷つけないような声かけやケアを職員に徹底している。	職員は、利用者の誇りやプライバシーを大切に捉え、本人に寄りそったさりげない言葉かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意向をうかがい利用者が十分に意思決定できない場合でも日頃の生活歴や表情など注意深く読み取りその人の思いを代弁できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや体調に合わせて職員と会話を楽しんでいる。また、利用者の力に応じた役割を担っていただき、本人の希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔、、髭剃りなどの身だしなみの支援はもとより衣服の調整など季節や好みに応じて支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを考えて楽しく食事ができるような雰囲気づくりを大切にしている。調理や後片付けを利用者に手伝っていただいている。	利用者は、職員とともに調理や準備、後片づけなどを行っている。職員は、利用者の好みを把握し、一人ひとりの状態に応じた支援をすることで、食事が楽しいものとなるよう働きかけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立をもとに食事を提供。高血圧の方には塩分制限であったり、水分制限など医療と連携を図り個別に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にうがいや歯磨き等を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	グループホーム希望の家		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見ながら利用者の方の排泄パターンに沿って声かけ、トイレ誘導。オムツ交換を行っている。		利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導を行っている。おむつを使用している方も日中はトイレ誘導を行い、排泄の自立に向け支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や食事内容、水分摂取量をチェックしている。下剤を服用している利用者には、状態に合わせた使用量を調整している。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に必ずバイタルチェックを行い、安心安全に入浴していただけるにしている。必ず声かけし拒否など抵抗ある場合は時間をずらしたり、日を改めたりして意向に添えるよう支援している。		利用者一人ひとりの生活習慣や希望に応じ入浴を支援している。入浴を拒む方には、声かけやタイミングを工夫し、くつろいで入浴してもらうことができるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を支援し、生活リズムを作り、出来るだけ夜間に安眠できるよう支援している。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からの処方箋を職員が周知し、薬の目的や用法、用量を理解し、服薬を支援している。箱に仕分けして間違いのないよう服薬していただいている。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの出来る事を見つけ、洗濯物たたみや掃除等の役割を担って職員と一緒にやっている。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は日向ぼっこや散歩支援、また行事に外出支援を取り入れるなど楽しんでいただけるような計画を立て、実践している。		日ごろから、地域の行事や近隣の花壇へ出かけ、戸外で気持ちよく過ごすことができるよう支援している。また、家族の協力を得て、本人の行きたい場所への外出を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム希望の家 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物品購入時は必ず家族に事前に報告し、了承を得、職員が代行で購入している。また、家族に面会を兼ねて持って来ていただく事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、家族便りを発行。プライバシーに配慮しながら本人の希望によって、いつでも家族等に電話をかけたたり、手紙が出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を入居者の方と植え水やりを行い、育てる喜びを感じあう事ができ、行事の時には季節を感じられる飾り付けや食事メニューを用意し、楽しめるよう工夫している。	利用者は、居間で折り紙を楽しんだり、洗濯物をたたんだりしており、家庭的な雰囲気の中穏やかに過ごしている。行事の際には、季節感のある飾りつけや食事をみんなで楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファや観葉植物を置き、居心地のよい空間になるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が今まで使っていた馴染みの品を持ち込んでいる。家族に相談して日頃、使っていた物を持ってきてもらえるよう協力をお願いしている。	利用者は、居室に馴染みの品物や使い慣れた調度品を持ち込んでおり、本人が落ち着いて過ごすことができる空間となっている。利用者は、居室の壁面に写真を飾ったり、好みの装飾を施したりして、温もりのある雰囲気がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が混乱せず、トイレ等がわかりやすいように必要な目印をつけている。廊下や浴室などに手すりを設置している。廊下や居室はバリアフリーになっている。		